

見つけよう！自分の力と友だちの力

～豊かな自然と温かな人々との交流を通して～

福山市立服部小学校 対象学年（５年）

体験活動の種類 社会奉仕 自然 勤労生産 交流

体験活動場所・宿泊場所 神石郡神石高原町・ながの村

【学校紹介】

本校は、開校102周年を迎える歴史のある学校である。福山市北部の商業開発地である駅家町にありながら、蛇円山のふもとに位置し、豊かな自然環境に恵まれている。今日では、服部川を中心に『ほたるの里』として有名である。児童数は54名と少人数ではあるが、「福山市環境学習推進校」の指定を受け、「地域を学び、自然を守る服部っ子」を日本一宣言にかかげて、地域の方の協力を得ながら、ほたるの飼育、服部川の水質調査、服部川の清掃活動に積極的に取り組んでいる。



森を歩き、服部川との関係を学ぶ

本校は、情報教育を研究領域とし、「教えあい・認めあい・励ましあいのある授業の創造～情報活用能力の育成から～」を研究テーマに、児童の思考力・表現力・判断力を高める授業実践に取り組んでいる。

校長名：土屋 敦

児童数（学級数）：54名（6学級）

所在地：広島県福山市駅家町大字助元70番地

電話番号：084-978-0121

URL：<http://www.edu.city.fukuyama.hiroshima.jp/shou-hattori>

【体験活動のねらい】

自然に関わる体験活動を通して、自然の恵みや働きについて理解を深め、自然環境を大切にしていこうとする心情を育てる。

他者と協働した集団宿泊体験活動を通して、自分と向き合わせ、判断力、協調性、規範意識を高めるとともに、自己肯定感を感じさせる。

宿泊先のお年寄りの方との交流活動を通して、あいさつを交わしたり、感謝の気持ちを表現したりする力を育てる。

【指導計画】

実施時期	活動内容	実施時間数	教育課程上の位置づけ	実施場所	指導者
5月	事前学習 ・内容項目（1-2） 「夢に向かって」について	1	道徳	学校	担任

6月 ～ 7月	<ul style="list-style-type: none"> ・宿泊学習のねらい・テーマを決定 ・体験内容を知り，班別の目標を設定 ・発表までの計画を立案 ・神石郡神石高原町の産業や地理・気候・伝統文化などの学習 ・自己紹介カードの作成 ・受け入れ先へのお願い文作成 	5 3 2	総合的な学習の時間 社会科 学級活動	学校	担任
8月23日 ～ 8月26日	集団宿泊活動 <ul style="list-style-type: none"> ・牛の搾乳，餌やり体験 ・自然観察・洞窟探検・川遊び ・山の仕事体験（枝の間伐・搬出などの奉仕活動） ・山の料理体験・民話の語り・ストラップ作り（地域住民との交流） ・ファイヤーの集い ・自炊，宿泊施設の清掃活動（奉仕活動） 	2 4	学校行事	池田牧場 神石高原町 「ながの村」	学校職員 地元ボランティア 体験活動 指導員
9月 ～ 11月	事後学習 <ul style="list-style-type: none"> ・体験活動のまとめと成果のまとめ（発表会に向けての計画と内容づくり） ・内容項目（2 - (5)）「人々の支え合い」について ・活動の報告文を作成 ・発表会練習 	8 1 10 6	総合的な学習の時間 道徳 国語科 総合的な学習の時間	学校	担任
11月	成果発表会（参観日）	1	総合的な学習の時間	学校	担任
1月 ～ 2月	<ul style="list-style-type: none"> ・感謝の絵手紙の作成 ・服部川クリーン大作戦（奉仕活動） ・自分たちが主体的に動き，地域の方と一しょに服部川の清掃を実施 	2 10	図画工作科 総合的な学習の時間	学校	講師 担任

【体験活動の概要】

「さざんかの会」のみなさんとのストラップ作り（交流体験）
 ふくろうの保護活動に取り組まれている見永さんが，さざんかの会のみなさんと一しょに，幸せを呼ぶ「ふくろうのストラップ」を作ってくださいました。1学期の家庭科学習で，やっと，なみ縫いや玉止めができるようになった児童であったが，みなさんから，「ここは，こうするんよ。」「上手にでき



ストラップ作り

たね。」「もう一つ作ってみるかね。」と、孫のようにやさしく接していただき、おばあちゃんたちとゆったりとした温かな時間を過ごすことができた。

宿泊施設の清掃活動・食事作り（奉仕活動）

宿泊施設の「ながの村」は、廃校になった永野小学校を改修した施設であるため、風呂場、洗面所、トイレ、寝室、廊下など広い施設を10人が協力して掃除をした。

また、朝晩の食事作りも行った。地域の方に指導していただいて作ったこんにやくは、混ぜるたびに固まってきて、児童はびっくりしていた。具たくさんの焼きそば、サンドイッチ、カレー、バーベキュー、卵焼きなど、苦労しながらも自分達で作った食事の味は忘れられない思い出となった。皿洗い、食堂の片づけなど、全てをみんなで協力してやり遂げた。



宿泊施設の清掃活動



こんにやく作り

幻の鍾乳洞探検（自然体験）

2日目に計画していた鍾乳洞体験が、前日の大雨のため4日目に延期となった。

事前学習として、児童はテレビ放送があった鍾乳洞のビデオを見たり、写真集を見たりして幻の鍾乳洞に期待を膨らませた。

4日目の朝は、朝早く起床して準備をし、8時に宿舎を出発した。行きは、細くて急な下り坂であり、昨日の雨で地面が濡れてぬかるんで滑りやすくなっていたが、児童は、元気よく、道を下って行った。先に行った児童が、後から来る友達を待って「大丈夫？後少しだよ。」と声を掛け合い励まして進んでいった。川が見えた時は、「もうすぐ鍾乳洞の入り口だよ。みんながんばろう。」という声が自然にあがっていた。

洞窟に足を踏み入れた時、「すずしい。すごい鍾乳石だ。きれい！」という感動の声が響いた。帰路はとても急な上り坂で、足を踏みはずした児童もいたが、「大丈夫か。」とすぐに助けにいく友だちの姿があった。



はしごを登る児童



幻の鍾乳洞

【体験活動の効果を高める事後学習】

道徳「やさしい人たち」(2-(5) 主題名：人々の支え合い)

「山・海・島」体験活動で、たくさんの方にお世話になったことを思い出させ、自分のこ

れからの態度を考えた。「私は、人にやさしくしてもらっただけじゃなく、自分が他の人にやさしくしてあげたり、助けてあげたりしたいです。みんなから感謝される人になりたいです。」と振り返る児童もいた。

総合的な学習の時間「体験活動のまとめと成果のまとめ」

11月22日の「山・海・島」体験活動成果発表会に向け、活動で学んだことや感動を伝えるために、準備を進めていった。児童の伝えたいという気持ちを高めるため、「ながの村」でお世話になった方や、保護者を招待した。また、発表集会を開き、他の学年にも活動報告を行うことにした。児童は授業時間のみならず、休憩時間も活用して、友達と練習する姿が見られた。

その甲斐あって、発表会では、伝えたいことをはっきりと表現したり、洞窟探検やファイヤーの様子をミニ劇で表現したりと、その時の達成感を伝えることができた。参観者の皆さんから「素晴らしい発表でした。」と大きな拍手をいただき、児童はやりきった満足感を感じることができた。

【交流先や施設等との連携】

宿泊先のながの村や池田牧場とは、活動内容について何度も電話やファックスで連絡を取り合い、活動内容が充実できるよう計画した。

1回目の現地下見では、活動施設ごとに打ち合わせや施設見学を行い、日程・活動内容・活動方法などを話し合った。

2回目の現地下見では、持参する物、施設に依頼する物、予算について確認した。また、活動場所への移動方法など、実際に歩いて確かめた。

活動内容が決定後、児童に活動でお世話になる方に依頼の手紙を書かせて送った。

宿泊前日にながの村の天気や活動内容について、電話で最終確認を行った。

体験活動後、活動でお世話になった方に対して、児童にお礼の手紙や成果発表会への招待状を書かせて送った。民話を聞かせてくださった方が、家族で発表会に参加して下さり、児童の発表に大きな拍手を送ってくださった。

【評価の工夫】

体験活動のしおりに「山・海・島」体験活動のねらいを達成するための「班のめあて」「自分のめあて」を決め、1日の振り返りを行った。活動した感想には、「自分のがんばり」と「友だちのがんばり」に視点を絞って書かせた。また、めあての達成状況を4段階で自己評価させ、明日のめあてにつなげるよう指導した。

最終日の活動後、児童に「一人一人の友だちのがんばりやよいところ」、「自分自身の活動前と活動後の変化」について振り返らせた。また、保護者に「わが子へのメッセージ」をしおりに書いていただき、家族の思いに気付かせた。

みんなに迷惑をかけただろうけれど、楽しかったようで良かったね。家では、ずーっと心配していましたよ。探検のとき、すべり落ちたようですが、無事に帰ってくれたので何よりです。活動から得た経験を生かして2学期からもがんばってね。(母より)

活動4日の体験活動を振り返って			
達成状況	達成状況	達成状況	達成状況
自分自身	友だち	先生	保護者
達成状況	達成状況	達成状況	達成状況
達成状況	達成状況	達成状況	達成状況
達成状況	達成状況	達成状況	達成状況
達成状況	達成状況	達成状況	達成状況

活動した感想

わが子へのメッセージ

振り返りシート

【安全面の配慮事項】

昨年度の体験活動実施校から現地の状況や留意点についてアドバイスをいただいた。

宿泊先や活動場所の現地下見や関係者との打ち合わせを入念に行った。

危機管理マニュアルを作成し、引率者全員が内容の共通理解を図り、活動に臨んだ。

児童の健康状況を事前に把握するとともに、毎日朝晩の健康観察を実施した。特に、熱中症対策のための水分補給、活動後の休憩時間の確保、十分な睡眠時間の確保に努めた。

自然探検時の危険を避けるために、虫除けスプレーの携帯、ヘルメットの着用、長靴に縄を結わえてすべり止めを行うなど、安全対策を行った。

天気予報を常にチェックし、宿泊先の指導者と連絡を取り合った。危険を回避するために予定を変更し、安全を確保して洞窟探検を実施した。

児童を引率する教職員と食事を作る教職員、学校に待機し連絡を待つ教職員とに分かれて、全校体制で体験活動を支援した。

【体験活動の成果と課題】

児童は、家族と離れて3泊4日の集団宿泊活動をやりきり、「やればできる」という自信を持つことができた。様々な体験を通して、自分のよさに改めて気付くことができた。さらに学校では気付かなかった友達の頑張る姿ややさしさに触れ、友達のよいところを発見することができた。(自己肯定感の向上)

鍾乳洞探検で、険しい自然に立ち向かい、励まし合って全員が目標を達成したことは、5年生の「絆」を深め、苦しくてもあきらめずに努力する気持ちを持つことができた。

活動前は、「これはできないから、やらなくてもいいや。」と思っていたけど、活動後は、「これもできそうだからやってみよう。」と思えるようになってきた。(活動後の児童の感想より)

2学期からの学校生活でも、積極的に活動する児童の姿が見られた。保護者からも「家でも進んで挨拶をするようになった。自分のことは、親に頼らず自分でできるようになった。食事の手伝いや片付けなどいつの間にかしていた。」という感想がきかれた。

成果発表会での児童の姿から、保護者は、より児童の成長を感じ、体験活動の意義や必要性を感じとることができた。来年度からも長期宿泊体験活動を教育課程に組み込み実践していきたい。

課題は、児童のアンケートの郷土愛の項目「7 自分が暮らす地域のことをもっと知りたい」の肯定的評価が下がったことである。総合的な学習の時間「ほたるを知ろう」の単元において、ほたるの生態や飼育方法を学び、地域の「自然を守る会」の協力を得て、服部川のほたるを捕獲し飼育する活動をしていたが、その学習と「山・海・島」体験活動の学習をきちんとつなげてとらえさせることが不十分であった。一つ一つの単元を貫く「児童につけたい力」を意識して、活動をつなげていく必要がある。

<児童アンケート結果>

